

有為転変は世の習い

第9期 OG 島田 弥英
(旧姓:水田)

2017年を振り返りますと、広島から三重への異動があったり、結婚をしたりした2016年と比べ、のんびりとした穏やかな1年でした。それゆえ、この1年の印象的な出来事を思い出そうと頑張りましたが、2つしか思いつきませんでした。非常に瑣末な出来事ですが、綴らせて頂きます。

◆「誰も三重に来ない」

私が三重県は津市に越して、1年半あまりが経ちました。住めば都とはよく言ったもので、比較的都会を転々としていた私も、気が付けばすっかり三重に馴染んで、何の抵抗もなく過ごしております。ただ、「いつか遊びに行くからよろしくね」などと声をかけてくれた人は、未だに誰1人として三重を訪れていません。私は聞きたい、いつになったら来てくれるのかと。広島の際は来てくれたのではないかと。皆さん、ご存じないかもしれませんが、三重にはさまざまな訪ねるべき観光名所、食べるべき特産品があります。伊勢神宮や赤目四十八滝、真珠、ウナギやカキなど、海・山の幸ともに充実しております（詳細は県や市のホームページをクリックしてください）。

あと2~3年は、三重で勤務する予定ですので、ぜひ、大阪あるいは名古屋に行くついでにでも、三重にお立ち寄りください。

◆「結婚式を挙げました」

さる2017年3月に、名古屋で挙式・披露宴を執り行いました。披露宴にお越しいただいた小野先生、同期女子、プラスアルファの方々、遠路遥々、本当にありがとうございました。披露宴での催しは極々平凡なものばかりでしたが、1つくらいは名古屋らしいコンテンツを…と考えて、行ったのが「菓子まき」です。「菓子まき」は名古屋の伝統的な婚礼文化の1つで、花嫁が生家を出て婚家へ向かうのを妨害しようとする不遜な輩を説き伏



「菓子まき」に興じる著者（著者は右側）

せるために、菓子（あるいはお金）を渡したことが由来であるとか。愛知県出身ではない参列者の方には、全力でお菓子を投げる新郎新婦の姿はかなり奇異に映ったと思いますが、投げている側としてはなかなか楽しかったです。ちなみに、「菓子まき」には小野先生にも参加して頂きました（小野先生、ありがとうございました！）。

こうやって記してみますと、本当にこの1年、公私共々、代わり映えしない日々を送ったのだなと痛感せざるを得ませんね。来年度のOB・OG会誌では、もう少し尖ったエッセイが書けるよう、精進します。



「菓子まき」をしてくださった小野先生



披露宴にて小野先生と第9期同期女子+α（著者は1列目右側）